

# Q1 八百津高等学校の 存続について

## 現状と取組について

**問** 人口減少に伴い、県教育委員会は可茂地区で将来県立高校を一枚減らす計画があると聞いている。町民にとって高校をなくすことは大変悲しいことです。地元中学からの進学率も、年々増えてきており、存続を願うものである。第1点として、現在、どのような状況なのか。第2点として、今後、存続についてどのような方策で取り組んでいくのか伺いたい。

## 答

(堀部教育長)

1点目の現在の状況については、現段階としては何も決まっていなのが実情です。県は、岐阜県の教育施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、「第2次岐阜県教育ビジョン」を策定しました。この中で高校の枠組みの見直しについては「今後、活力と魅力ある高校づくりを進めるために、平成13年の学校改革委員会の答申で示された1学年4から8学級を適正な学校規模とした基本的な考え方をもとに、平成31年度以降の生徒激減に向けた体制整備を検討する。今後の少子化の進展により、適正な学校規模が維持できない可

能性のある高校について、地域や高校の特性、学びの機会の保障等にも配慮しながら、その在り方についての検討を進める。」と述べられています。

そのために県は有識者による「岐阜県立高等学校活性化策定委員会」を設置し、審議と並行して、市町村長や産業界の代表から意見を聞きながら、学区別に意見交換会を開催しています。

平成27年度末までに「高等学校活性化策定委員会」より、今後の高校活性化の方向性についての提言が出される予定でありその提言を受け、県教育委員会としての活性化計画を検討していくことになると思っています。

2点目の存続については、どのような方策を考えているかという点ですが、町として、今3つのことに力を入れています。

1つ目は、八百津高校の魅力づくりへの支援を行うということです。いかに子供たちが入学したい高校にするかが大きなポイントであり、八百津高校は校長先生を中心として、魅力ある学校づくりに励んでいます。「一人一人が大切にされる学校として、人権教育に力を入れていくこと」・「可能性を引き出す企業実習、デュアルシステムを通じて、望ましい職業観を養うこと」・「連携型中高一貫教育実践校として、地域で育ち、地域で学び、地域に貢献できる社会

人の育成を図ること」などです。これらの魅力づくりに対して町・教育委員会として、支援を行っています。

人権教育推進では、町の行事「児童・生徒会サミット」へ八百津高校生の参加を要請したり、4時間にわたって、八百津高校生を対象に「いじめ追放」についての出前授業を行う、また、連携型中高一貫校の活動への支援も大切にしており、教員の交流と子どもとの交流をコーディネートしています。

2つ目は、八百津町の行事に八百津高校生をボランティアなどで活用することの推進です。例えば、サマーフェスタに八百津高校のボート部員・カヌー部員に運営のお手伝いをしてもらったり、小学生を対象にした算数と英語の学習会の折に、ミニ先生として活躍をお願いして、地域に貢献する人材の育成への支援を行っています。

3つ目は、県の幹部との会議等で八百津高校の存続の必要性を訴えることです。赤塚町長は、「八百津町にとって、八百津高校の存在は極めて大きいものがある。八百津高校がなくなることは、子供のためにならない。地域の存亡もかかっている。規模の大小にとらわれず、子供たちの成長のために、地域の活性化のために小規模校も存続すべきである。」と力強く訴えまし

た。

これからも、町として、教育委員会として、八百津高校存続に向けて、努力をしていきたいと思えます。



# Q2 八百津の観光行政 について

## 観光行政への取組は

## 問

人道の丘に來られる見学者が大々的に増加し、多くの見学者が來られても、見学時間は、1〜2時間のことです。町内で楽しめる場所、買い物等ができる1時間コース、2時間コースの案内パンフレットをつくって、町内にとどまっていただけでなく、また、町の特産品がたくさんありますので、町の中心地に物産館をつくって、食事も買い物もできるような観光客に喜んでもいただくようにすべきだと思います。また、今後の観光のことを考えると、今から駐車場のこと

も検討しておく必要があると思う。1時間・2時間コースのパンフレットをつくってはどうかということ、将来に向け駐車場の検討をする必要があるのではないかと2点について伺う。

## 答

(藤本産業課長)

観光ルートについては、時間別の観光コースはありません。しかし、基本ルートをつくっておけば、案内する際にも大変有効であると思いますので、観光協会とも提案しながら進めていければと考えています。

次に、駐車場については、11月の混雑時にも大きな苦情もなく対応できておりました。人道の丘公園の中を散策していただいたり、カフェ等の施設も利用していただくためにも、今の駐車場がちょうどではないかと考えております。しかし、今後、さらなるお客様が増えてくるようであれば、当然駐車場も手狭になってきますので、今から調査・検討させていただきたいと思えます。

